



平成 24 年 8 月 24 日 第 2 卷(第 20 号)

発行： 東京都新宿区住吉町 8-20 四谷チンゴビル 2F

災害対策本部 TEL (03)3351-5038

FAX (03)5366-1058

mail:dsstsw@jaswhs.or.jp

●●●目次

- 1.災害対策本部からのお知らせ
- 2.現地支援活動報告
- 3.現地感想文
- 4.事務所感想文



群馬県 谷川岳一ノ倉沢

●●●災害対策本部からのお知らせ

【1.協力員募集】

●●●現地

現地の業務状況を鑑み、当面は制限なく受入を行います。

中 3 日以上・なるべく平日の活動が理想的ですが、具体的な日程については、災害対策本部までお気軽にご相談ください。

***9 月はまだあまり応募がありません。ご都合の付く方、ご協力をお願いいたします。

●●●事務所

引き続き募集しております。

平日のみの活動ですが 1~2 ヶ月に 1 回でも構いません。ご協力をお願い致します。

【2.災害対策本部】

今回は 9 月 7 日(金) 19:00~協会事務所にて開催します。ご意見や検討事項がありましたら、9 月 3 日(月)までに災害対策本部まで電話やメールでお寄せください。

【3.書籍販売】

『東日本大震災医療ソーシャルワーカーの支援のバトン 1』
の販売を行っています。

発災から昨年 9 月 30 日までの石巻・仙台・大槌町・事務所・災害対策本部の活動の記録をまとめました。ぜひご覧ください。尚、売上金の全額を皆様からの寄付として、本活動の資金に充てさせていただきます。

※ご注文は注文用紙で承ります。



●●●注文用紙はホームページからダウンロードできます。

http://www.jaswhs.or.jp/date/publishing_detail.php?@DB_ID@=45

【4.facebook】



facebook でも情報をお伝えしています。現地や災害対策本部の日々の様子をお伝えしています。応援よろしくお願いたします。

●●●URL

<http://ja-jp.facebook.com/pages/ 公 社 日本医療社会福祉協会 - 災害対策本部 /156327867812970>

【5.YouTube】

現地での災害支援活動の様子を前事務所担当の一原さんが VTR にまとめて下さいました。YouTube にアップしましたので、是非ご覧ください。「医療ソーシャルワーカー災害支援」で検索すると見つかります。



●●●URL

<http://www.youtube.com/watch?v=vn34I9h5rJ4&feature=youtu.be>

【6.現地・事務所職員募集】

災害対策本部では現地・事務所職員を随時募集しています。

災害支援に関心のある方からのご応募をお待ちしております。

または周りでご興味のある方がいらっしゃいましたら、是非ご紹介ください。



まえばし花火大会

●●●①現地常駐者(短期契約職員)

- ・就業場所:宮城県石巻市大街道北
- ・就業時間:9~17時
※業務の関係で残業あり。
- ・休日:土曜・日曜・祝日・年末年始
- ・基本給 250,000円/月
- ・通勤費実費支給
- ・社会保険加入
- ・医療ソーシャルワーカー業務経験必須
- ・長期の方優遇。月単位でも応相談。

●●●②災害対策本部事務所担当(パート職員)

- ・就業場所:協会事務局内
- ・就業時間:週3日程度 10~17時
※業務の関係で残業あり。
※頻度・時間は応相談。
- ・休日:土曜・日曜・祝日・年末年始
- ・時給 900円~ 通勤費は実費支給
- ・経験不問。医療ソーシャルワーカー業務経験者優遇

ご応募の方は下記宛に履歴書をお送りください。面接にて決定させていただきます。
または災害対策本部までお気軽にお問い合わせください。

●●●お問い合わせ

住所: 〒162-0065 東京都新宿区住吉町 8-20 四谷チンゴビル

電話: 03-5366-1057

担当: 笹岡・中川

●●●現地支援活動報告

活動期間:2012年7月26日~7月28日

山内 麻由美(神奈川県 茅ヶ崎市立病院)

私は今回初めて本活動に参加しました。現地では在宅被災者の方の電話相談や訪問をし、昨年3月11日に何が起き、そして今、何を考えて日々を過ごしているのかを、様々なクライアントの立場から擬似体験をさせていただいているような気持ちでした。

私の中で新聞のモノクロ写真のようだった被災地の光景に色が与えられ、鮮やかな光景となって、私の記憶に焼き付けられたような気がします。

ある被災者の方のお話で印象深かったものがあります。「足りないものを挙げたら切りがない。ここから頑張るしかない。今は物もしっかり食べて、うちにいる者はみんな元気にやっとりますよ。」試練を乗り越えてこられた被災者の方の力強い言葉に胸が一杯になりました。

参加する前は経験も知識も乏しい自分に務まるだろうかと心配でしたが、これまでの支援経過がデータベースに蓄積されており、記録を読むことで、支援してきた方が、何に着目し、介入してきたかを学ぶことができました。そしていくつかのケースで次の方へバトンを繋ぐことができました。

最後になりましたが、温かく迎えて下さった現地支援員の方々、神奈川県協会から一緒に参加して下さった先輩方に助けていただき、実りある3日間を過ごすことができました。本当にありがとうございました。

活動期間:2012年8月2日~8月4日

岡江 晃児(大分県 国立病院機構大分医療センター)

私は、今回初めて被災地(宮城県)に行き、災害支援の活動をしました。震災直後から、九州の地から自分は何ができるのかと悩みながら、約1年半を過ごしてきました。日本協会の災害支援HPを閲覧していく中で、震災時から約1年半経過しても、継続的なソーシャルワークの支援が必要であることや、自分が少しでも支援ができることがあるのではないかと強く思い、被災地へ行くことを決断しました。

被災地へ行ったことで、ソーシャルワーカーが支える「生活」の視点の専門性を改めて考え直すことができ、また専門職能団体としてソーシャルワークを行う社会的な責任の重要性を再確認することができました。

この度、このような機会を与えて下さった日本医療社会福祉協会、そして出会った被災地の方々やお世話になった現地担当者の方に感謝申し上げると共に、一日も早い復興を願っています。

●●●現地感想文

●●●8/14 水口由佳(横浜市立大学附属病院)

「テレビでしかみたことのない光景を目の当たりにし、当時の状況や家族等大切な方を亡くされた方々の気持ちを想うと言葉を失いました。また、石巻地域の自立に向け、活動する様々な団体が集まる会議に参加し、復興支援はコミュニティ力の再生・地域福祉を増進していくことなのだ実感しました。中長期的な支援の必要性を実感した5日間でした。

●●●8/15 高木愛子(横浜市立大学附属病院)

アセスメント調査に同行し、大規模損壊に合われた方、家族を亡くされた方から沢山お話を伺いました。

正直どう声をおかけしたらいいか言葉を失いましたが、皆さん温かく迎えて下さりパワーを頂きました。また参加させていただきたいです。

●●●8/16 依光則子(現地担当)

TVニュースで紹介されていた映画、

「石巻市立湊小学校避難所」 <http://www.minatohinanjo.com/>

「家や家族を失くした人たちが、ここで大きな家族になった。」

避難所の本音の6カ月を追ったドキュメンタリー。だそうです。

今週末から東京・新宿で公開。順次、大阪・名古屋・仙台でも。

また、協力員の方には宿舎で度々ご紹介する門脇小学校のドキュメンタリーもついに完成。「津波のあとの時間割」 http://www.aftersunami.net/?page_id=12

石巻では今週末上映。埼玉でも予定が。どちらも行かねば、です。

今日通った門脇周辺は、丈高い夏草が生い茂っていました。

●●●8/17 富士川浩子(大阪府済生会中津病院)

被災から1年4ヶ月を経て、初めて日本協会復興支援の現地ボランティアに参加させて頂きました。被災当時の映像から現在の姿を見るとこの期間での現地の皆さんや各地からのボランティアの方達、支援団体、日本協会の皆様の地道な復興への努力や道のりが大変であったと想像できました。更地や建物が取り壊された建物の一角にポツンと修復された家があったり・・・コミュニティの崩壊を見せつけられました。物資やハード面の復興だけではなく孤立感へのアプローチなど精神的フォローや見守り、寄りそいサポートの重要性が増してくる時期だと思いました。訪問させて頂いた被災者の方から「仕方ない！」と諦めの言葉をお聴きして、震災の残した生活課題の大きさを感じました。生活再建が進む世帯と再建が滞る世帯とに格差が今後ますます出てくると思われます。「見捨てられ感」を増長されないようにこのような訪問、電話での継続フォローは必要な活動であると思いました。

日本協会現地スタッフの皆様の温かい丁寧なサポートで協力委員の活動をさせて頂きました。日々の活動に頭が下がります。

●●●8/17 広部麻由子(大阪府済生会吹田病院)

初めて協力員として参加させて頂きました。

震災があったことを思わせない地域がある一方で、震災の爪痕が今も残っている地域も多くみられ復興の差を感じました。

しかし民家の庭先だけでなく、今は雑草が生え荒地となってしまう場所にも変わらずに咲いている向日葵がとても印象的でした。

本日は自宅訪問をさせて頂きました。不在のお宅も多かったのですがこれまでのスタッフの方々の尽力もあり事前に情報収集や、面接準備ができたことはとても心強かったです。

●●●8/18 依光則子(現地担当)

先日もご紹介した映画「津波のあとの時間割」、を今晚観てきました。

震災後の石巻を、門脇小学校の小学生たちの一年間を軸にとらえた映画です。

震災で過酷な体験をしながらも、瓦礫の街の間借り校舎で、元気いっぱい、いつも通りの子供たち。

大人たちが、住民の意思の反映されない被災区域の再建計画に戸惑う一方で、子供たちは総合学習で、彼らなりの石巻のまちづくりを考えます。

この子供たちが大人になる頃、石巻はどんな街になっているのでしょうか。

●●●8/19 中辻康博(現地担当)

お盆休みも明け、アセスメントメンバーにも新顔・リピーターがたくさん来られています。

今週、当協会もたくさんの協力員が来てくれる予定です。

●●●8/20 久保木美由紀(現地担当)

昨日「津波のあとの時間割～石巻・門脇小の1年の記録～」を見てきました。

子ども達の表情が明るかったこと、悲しみを抱えながらも津波に対して前向きに取り組んでいる姿勢に感銘を受け、まさに石巻の希望だと思いました。

●●●事務所感想文

残暑も厳しい中、この週末は、たくさんの協力員さんが現地で活躍されています！ありがとうございます。

9月はまだあまり応募がありませんが、皆様のご参加をお待ちしております。

事務所・三輪清子